



# WithYou

2011年 社会貢献活動報告

## ナショナル・トラスト活動を応援

生物多様性の宝庫 ― 英国ウィッケン・フェンへ  
世界遺産の地・知床半島をいく

## サクセスフル・エイジング

アクティブなセカンドライフを送るために必要なこと  
人生に「余り」は無い ― インドの孤児支援に毎日を捧げる





保護区内には木道が整備されている ©NTPL/Paul Harris



英国ナショナル・トラストの所有地であることを示す看板



ため池のまわりに美しいアイリスの花が咲くウィッケン・フェン ©NTPL/Joe Cornish

# 生物多様性の宝庫——英国ウィツケン・フェンへ 市民の手で守り継がれる自然環境

## 湿地を中心とした美しく豊かな自然

英国・イングランドの東部、ロンドンから北へ車で約1時間。ケンブリッジとイプスウィッチという2つの町の間ほどに、国立自然保護区にも指定された、ウィッケン・フェン（フェンは湿地を意味する言葉）と呼ばれる広大な湿地帯が広がります。

一歩中に入ると、あたりは一面、見渡す限りの湿地と森林、水路やため池。その美しい自然風景はまた、8000種にもおよぶ多様な動植物のすみかでもあります。ここは、英国でもっとも豊かな生物多様性を持つ自然保護区です。中でも、カブトムシやアブ、蛾といった昆虫類の種の豊富さは圧倒的で、それだけでも約4000種が生息しているといわれています。

周囲の湿地帯の多くが農地として開発された中、このウィッケン・フェンは自然のままの環境が残る希少な

れたのは1895年です。そして4年後の1899年に、自然環境保全を目的とする初めてのケースとして、ウィッケン・フェンの土地約0.8ヘクタールを購入しました。その後、50回以上にもわたって少しずつ買い足し、今ではナショナル・トラストが所有するウィッケン・フェンの土地は、約930ヘクタールにまで広がっています。

## ウィツケン・フェンを守る壮大な計画

ナショナル・トラストは、現在も、さらに所有面積を広げる計画を進めています。100年規模で最終的には、ケンブリッジの町との間に約5300ヘクタールをカバーする広大な自然保護区に発展させることを構想しているのです。

自然環境を長期的に保護していくためには、希少な場所だけでなく、周辺も含めた広大な地域を守っていく必要があります。たとえば、取得している土地そのものは手つかずのままであったとしても、その境界ぎりぎりまで開発されてしまうと、生態系レベルでも景観レベルでも影響がおよぶからです。

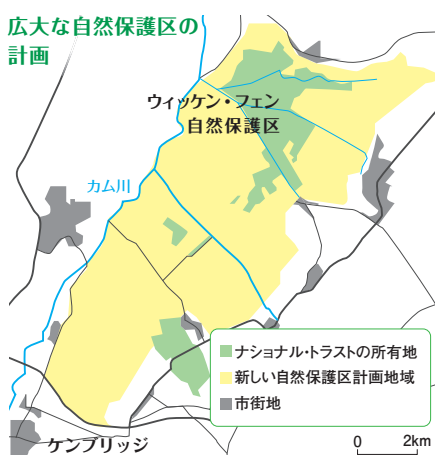
場所で、その手つかずの自然風景に惹かれ、年間4万人が散策に訪れるといえます。ビクターセンターや野鳥観察小屋などの設備を中心に、子ども向けの環境教育プログラムもたびたび実施されており、約5000もの学校がそれに参加してきました。

## ナショナル・トラストが守る貴重な自然

この豊かな生態系を育む湿地帯を保全し、守り継ぐ役割を果たしてきたのが、英国生まれの「ナショナル・トラスト」活動です。ナショナル・トラストとは、貴重な自然環境や歴史的・文化的資産を、市民の力で買い取ることで開発と破壊から守り、後世へと引き継いでいこうとする活動です。その運営は、趣旨に賛同する企業や市民からの寄付によって支えられています。

活動の主体となる団体「英国ナショナル・トラスト」が英国で設立さ

現在、英国ナショナル・トラストを支える会員の数は370万人以上。まさに地域の、そして英国の財産として、多くの市民の手で支えられながら、ウィッケン・フェンは変わらぬ姿であり続けているのです。





エゾシカ(写真提供 斜里町)

ヒグマ(写真提供 斜里町)

オオワシ(写真提供 斜里町)



知床五湖の中の二湖

# 世界遺産の地・知床半島をいく 日本のナショナル・トラスト活動先駆けの地へ

**豊かさと希少さが評価されて  
ユネスコ世界遺産に登録**

北海道の東端、海に向かって角のように突き出した知床半島。アイヌ語の「シリエトク(地の果て)」が語源ともいわれるこの地には、太古の時代から変わらない自然の風景が広がります。

垂直に切り立った断崖絶壁が続く海岸部分には、フレベの滝、カムイワッカの滝など、それぞれに違った風情を持ついくつもの滝が点在します。一方、内陸部には、うっそうと生い茂る原生林に囲まれて、神秘的な佇まいを見せる知床五湖。1月から3月にかけては、周囲の海を流水が埋め尽くすなど、四季折々の魅力に満ちた雄大な眺めが、訪れる人の目を楽しませてくれます。

そしてそこに暮らすのは、エゾシカやキタキツネ、ヒグマといった野生動物たち。海岸部にはトドやアザラシ、またオジロワシやオオワシなどの海

**「しれとこで夢を買いませんんか」  
集まった注目と寄付**

そこで立ち上がったのが、当時の斜里町長だった故・藤谷豊氏です。すでに英国で定着していたナショナル・トラスト活動に着目し、1977年、知床の土地を買い上げて保全するための「しれとこ100平方メートル運動」を立ち上げたのです。自分たちの力だけでは不可能でも、全国の人々の支援があれば、知床の自然を守るかもしれない、という思いに動かされたことでした。

「しれとこで夢を買いませんんか」をキャッチフレーズに、全国の人々に108000円の寄付を呼びかけたこの運動は、予想をはるかに超える大きな注目を集めます。テレビや新聞、雑誌でも取り上げられ、国内のみならず海外からの視察・訪問も相次ぎました。そして、1997年には寄付金が目標額を達成。20年間で、寄付した人の数は4万9000人あまり、集まった寄付金は5億2000万円にもなりました。

その後は「しれとこで夢を育てませんか」の運動として続き、買い取った土地では、「100平方メートル運動の森・トラスト」として、森

鳥も数多く生息しています。海と陸の生態系が相互に深く関連しながら育まれている、他に類を見ない豊かさと希少さが評価され、2005年には日本で3番目のユネスコ世界遺産(自然遺産)に登録されました。

**希少な自然を守ってきた  
ナショナル・トラスト活動**

この希少な自然を守ってきたのも、やはりナショナル・トラスト活動でした。その中心となったのが、知床半島の「付け根」部分に位置する、斜里町の人々です。

1970年代、「日本列島改造論」の言葉とともに日本中に起きた「開発ブーム」。1964年に国立公園に指定され、訪れる観光客の数が急増していた知床も、その例外ではありませんでした。一部の土地が不動産業者の手に渡るなど、乱開発の危機が押し寄せようとしていたのです。

と動植物を取り戻し、自然生態系の復元を目指す活動が続けられています。この活動は、1997年以降2011年1月末までの13年間で延べ14564人が寄付し、2億4900万円を集めています。

開発の危機にさらされた自然環境を、多くの人々の寄付によって守る、「ナショナル・トラスト」の考え方をまさに体現した知床の「100平方メートル運動」。その成功は、日本のナショナル・トラスト活動の先駆けとして、日本各地に活動が広がっていく大きなきっかけともなったのです。

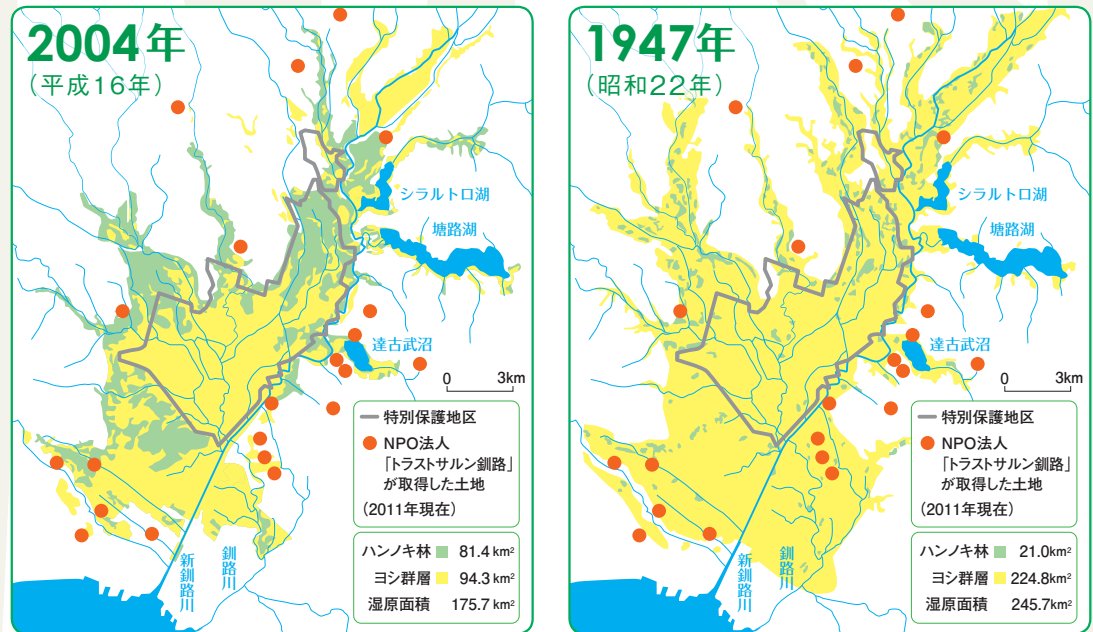


ナショナル・トラスト活動で取得した知床の土地。2010年11月に、対象地すべての取得が完了した。(写真提供 斜里町)

## 釧路湿原の湿原面積の変遷

1947年と比べると湿原の面積が減少するとともに、湿原の乾燥化によって釧路湿原を代表するヨシ群落が減り、乾いた環境に生育するハンノキ林が拡大しています。このことは、釧路湿原の豊かな生態系が消失・劣化の傾向にあることを示しています。

NPO法人「トラストサルン釧路」は、釧路湿原を守るためにはその集水域を保護することが重要と考え、国立公園の特別保護地区(□部分)から外れている周囲の丘陵地帯を中心にトラスト地(●部分)を取得しています。



国土交通省北海道開発局釧路開発建設部の資料をもとに(社)日本ナショナル・トラスト協会が作成

## 自然はつながっている

保護地を「保護」するメカニズム

なぜ40%の湿原が失われたのか  
〜釧路湿原

釧路湿原は1987年に国立公園に指定され、湿原の保護が行われています。しかし、過去3万ヘクタールあった面積も開発等により今日残されたのは1.8万ヘクタールしかありません。この50年間で、乾燥化によって森へと変わるなど、湿原は減少し続けています。

釧路湿原の乾燥化は、湿原内部に流れ込む釧路川や流域の中小河川からの土砂の流入が主な要因です。これは、戦後の農地開発に伴う河川の人為的な直線化や、上流の山林の伐採が引き起こしています。

湿地を元どりに再生するには、何より「流域視点の原則」の立場に立ち、水系全体を見渡す必要があります。ラムサール条約の「湿地再生の原則とガイドライン」でも、「湿地の再生事業は、集水域(湿地に流入する水を集める陸地の範囲)まで計画されている場合」にのみ、価値あるものとなる」と指摘されています。湿地は、より高い場所との生息環境の連続性を考えるければ、再生しないのです。

国立公園による保護の限界

国立公園の特別保護地区等に指定されている湿原自体は、比較的良好に保護されています。しかし、湿原を取り囲む流域の大部分は国立公園の指定外で私有地となっており、行政が山林の伐採や開発を禁止することが難しいのが現実です。

集水域を保護する  
トラスト活動

これに対しNPO法人「トラストサルン釧路」は、開発のおそれがある湿原だけでなく、湿原の水源地となっている周囲の丘陵地帯を中心に、土地の取得を進めています。湿原の周囲の山を守ることで、湿原を守っているのです。

トラストサルン釧路は、現在までに21カ所、405ヘクタールを取得していますが、湿原の広さを考えると、まだ緒についた段階です。

釧路湿原は、タンチョウをはじめ多くの貴重な生物が生息する国内最大の湿原で、そこで提供される自然の恵みは計り知れません。私たちは、このような自然を国民の財産として、保護・再生を図っていかなければならないのです。

## ナショナル・トラストによって守られている全国其自然



野生の生きものの宝庫 天神崎  
和歌山県 田辺市



湧水量日本一の柿田川湧水群  
静岡県 清水町



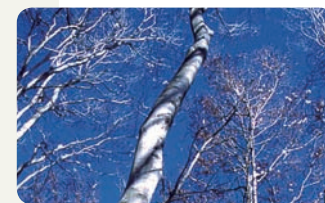
カラカネイトトンボのくらす  
篠路福移湿原  
北海道 札幌市



貴重な動植物がすむ阿蘇の草原  
熊本県 阿蘇地域



聖域・鶴岡八幡宮の裏山「御谷の森」  
神奈川県 鎌倉市



東京都民と埼玉県民の飲み水をつくりだす水源の森  
埼玉県 秩父市



全国で50以上の団体が各地でそれぞれの風土に根ざした  
ナショナル・トラスト活動を展開しています。

## 日本でのトラスト活動の展開

日本でナショナル・トラストの取組みが始まったのは1960年代半ばです。古都・鎌倉の鶴岡八幡宮の裏山にある「御谷(おやつ)の森」での宅地開発計画に反対する住民らが、英国で始まっていたナショナル・トラストの考え方にヒントを得て募金活動を展開。集まった基金と鎌倉市からの援助で土地を買い戻し、森を保護することに成功したのです。

それから半世紀。ナショナル・トラスト活動の輪は着実に日本全国に広がり、各地でそれぞれの風土に根ざした活動が展開されています。都市に残る貴重な自然を守る、希少な動植物の生息地を守る、水源となる原生林を守る…取組みが進む地域の数は全国で50以上。活動によって保護されている土地の面積は、約9千ヘクタールにもなりました。

当初は各地で独自に展開されていたナショナル・トラスト活動の連携を深めるため、1983年に全

## もつと守らなければならぬ 残りわずかな日本の自然

日本の国土の7割が森林で、一見、自然が多く残っているようにみえます。しかし、その半分近くはスギやヒノキの人工の林で、自然の森は国土の18%に過ぎません。また、国立公園などの保護区の中にも私有地が多くあり、開発が進行しています。このため、絶滅危惧種が生息する土地や、開発の危機が迫っている土地など、早急に保護しなければならぬトラスト対象地は全国各地に多くあります。

日本のナショナル・トラスト活動は活発になりましたが、「日本は自然が守られている」という固定観念もあり、会員数が伸び悩んでいます。一人ひとりの支援は少額でも、多くの善意が集まれば広い面積を買い取り、自然を守ることが出来ます。自然を未来へ引き継ぐために、ナショナル・トラスト活動は、多くの方の支援を必要としています。

## 日本全国に広がるナショナル・トラスト活動

貴重な自然を未来へと引き継ぐために

国組織が誕生しました。この組織は1992年には「日本ナショナル・トラスト協会」として社団法人化され、活動の中核を担っています。

## 1万円で、買い取り、保護できるのは・・・



国内最大の湿原・釧路湿原に水を供給している周辺の森林の場合

約 **600** m<sup>2</sup>



貴重な動植物の宝庫である熊本・阿蘇の草原の場合

約 **200** m<sup>2</sup>



絶滅の危機にあるヤイロチョウのすむ高知県・四万十川流域の森の場合

約 **125** m<sup>2</sup>



東京都民と埼玉県民の貴重な飲み水をつくりだしている秩父の森の場合

約 **100** m<sup>2</sup>

## あなたの財産で豊かな生態系を守りませんか

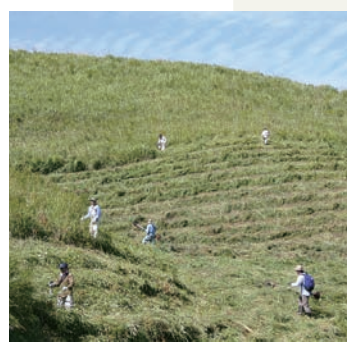
寄付金だけでなくボランティアでも活動を応援できます。全国のナショナル・トラストでは一緒に汗を流す方を募集しています。

### 阿蘇花野協会

熊本県・阿蘇の草原地帯には、ここで見られない動植物が数多く生息しています。しかし、農業の近代化や、畜産業の低迷などによって、草原の存在そのものが危うくなっています。そこで「阿蘇花野協会」では、ナショナル・トラスト方式で草原の土地を取得し、多様な植物の芽生えを進めるために草を刈り、さらに草を集めて飼料に活用するなど、草原の再生・保全につながる昔ながらの手入れ作業を地元農家の方の指導を受けながら、ボランティアで行っています。

また、毎年3月ごろに行われる「野焼き」も、他の植物の生育を阻害しがちなススキや低木を焼き払って新たな植物の芽生えを促進する、野の花が咲く草原の再生に欠かせな

い作業です。野焼きは火を扱うため大変危険であり、ボランティアは地元の方の指揮のもと、防火線を作り、消火道具を十分そろえるなど人念な準備の上で作業を行っています。



NPO法人 阿蘇花野協会  
電話・FAX: 050-6620-8306  
メール: info@asohanano.com

### おおたかの森トラスト

埼玉県西部に広がる雑木林には、絶滅の危機に瀕しているオオタカが生息しています。キツネやタヌキ、野ウサギなども住むこの貴重な林を守るため、1994年に誕生したトラスト団体が「おおたかの森トラスト」。雑木林の一部の土地を買い取り、借りたりして入手し、そこで

枯れ木の伐採や下草刈りなどの林の手入れ、ごみ拾い、苗木の生育、またさらなる土地購入のための資金源ともなる炭焼きや、きのこ栽培など、雑木林を再生し、野生動物が安心して暮らせる場所にしていくための作業を定期的に行っています。そうした作業には、個人でもグループでも自由にボランティアで参加することができます。事前に電話で活動場所を確認すれば予約不要で、当日飛び入りで参加できるのもうれしいところです。子どもたちの参加を待っています。



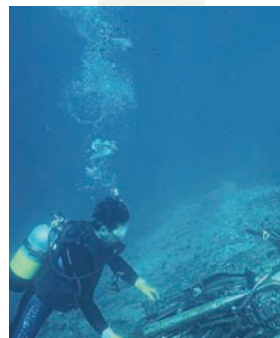
おおたかの森トラスト  
電話: 042-943-3448  
メール: ootakanomori@tba.t-com.ne.jp

### 天神崎の自然を大切にする会

和歌山県田辺市にある天神崎は、田辺湾の北側に突き出た岬。海側にも陸側にも希少な生物が数多く生息し、市街地に近接しながらも豊かな生態系が守られている場所として知られ



公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会  
電話: 0739-25-5353 / FAX: 0739-25-5385  
メール: info@tenjinzaki.or.jp



ています。1970年代に持ち上がった別荘地開発計画に反対する住民たちによって、全国からの募金を集めての土地買い取り運動が始められ、日本におけるナショナル・トラスト活動先駆けの地の一つとなりました。その当時から活動が続けるのが、公益財団法人の「天神崎の自然を大切にする会」。自然林保全や海底清掃の活動のほか、子どもたちを対象にした自然観察教室の開催も続けています。その絶好の題材ともなっている場所の一つが、天神崎の一角にある湿地帯。メダカやカスミサシヨウウオなどが生息する帯で、草刈りや土整備などを担当するボランティアを随時募集しています。

### 1万人の1万円を！

ナショナル・トラスト発祥の地・英国では「1人の1万ポンドより、1万人の1ポンドを」が合言葉となつています。特定の大口寄付だけに依拠せず、小口でも多くの人びとから寄付を集めることで100年もの間、活動を継続できたのです。日本においても同じことがいえま

### 土地をそのまま寄贈することも可能

ナショナル・トラストの目的は自然地をそのまま残すことです。お金で土地を購入する以外に、自然地を保有する個人や法人がその土地を寄贈することも可能です。

### 保有不動産を「社会の財産」として活用したい

「この自然が将来の人びとのためになり、本当にうれしい」。兵庫県在住のAさんは、保有していた石川県穴水町の約20ヘクタールの森を「能登・トキの森トラスト」として寄贈されました。穴水町は1971年まで本州最後のトキ「能里(のり)」が生息し、2010年に佐渡で放鳥された羽も舞い降りた地でもあります。全国各地に不動産を保有するAさんは、この土地を「社会の財産」と考え、ナショナル・トラストへの寄贈を決定されました。

### 40年前に別荘地として買ったが・・・

Bさんは、ご主人が亡くなった後、別荘用地として沖縄・宮古島の約1ヘクタールの森を購入していたことを思い出しました。しかし、もはやBさんには、別荘は必要ありませんでした。そこで、南国の美しい自然を未来に引き継がないかと考えられ、調査したところ、東南アジアから渡ってくる絶滅危惧種のサシバ(タカの一種)が羽を休める中継地として貴重な森であることが分かったのです。Bさんは、この森を寄贈。「宮古島サシバの森トラスト」として永久に保護されることになったのです。

# 住友信託銀行はナショナル・トラスト活動を応援しています



アマミノクロウサギ(写真 常田守)



ツシマヤマネコ(写真 山村辰美)



北限のブナ林(写真 斉藤均)

住友信託銀行が応援する3種の貴重な生きものたち

## 私たちも生きものを守ります

私たち住友信託銀行は、地球温暖化を含むすべての環境問題は、生きものの問題(生物多様性問題)につながると考えています。この問題を、私たちの手で取組んでいく最重要課題の一つと位置づけています。

こうした考えから、住友信託銀行では、日本を代表する自然保護団体の(社)日本ナショナル・トラスト協会や、(財)日本生態系協会から専門的なアドバイスをいただきながら、社会貢献寄付信託、遺言信託、投資信託によるキャンペーンなど、さまざまな形でナショナル・トラスト活動を応援していきます。

## いま、応援したい生きものたち

住友信託銀行は、昨年、投資信託「グリーンバランスファンド」の発売にあわせて3種の貴重な生きものを守る「ナショナル・トラスト応援キャンペーン」を実施しました。

3種の生きものの1つめは、アミノクロウサギ。このウサギは鹿児島県の奄美大島と徳之島にしか生息しません。しかし、開発の影響やハブ退治のために放獣されたマングースによる捕食で、その数が激減し、今では「生きた化石」、「世界で最も貴重なウサギ」と言われています。

2つめは、長崎県の対馬だけにしか生息しないツシマヤマネコ。ツシマヤマネコは森林伐採や交通事故などで数が激減し、現在の個体数は80〜110頭と絶滅の危機に瀕しています。1998年に環境省のレッドリストにおいて最も絶滅のおそれが高い種である「絶滅危惧ⅠA類」に指定されています。

最後に、日本のブナ自生の北限とされる北海道・黒松内町のブナ。ブナは、豊かな保水力で大地を潤し、多くの生きものを育み、人里を水害からも守ってくれる貴重な存在で、「森の医者」とも言われています。この町のブナ林である、「歌才ブナ林」は、1928年に国の天然記念物に指定されています。

住友信託銀行はキャンペーン終了後、(財)日本生態系協会に寄付を行い、3種の貴重な生きものたちに活用されています。

## いま、生息地を守りたい方へ

### 社会貢献寄付信託

公益団体等への寄付に対する関心が高まっていますが、「どこに寄付してよいかわからない」という戸惑いもあるようです。このような声に応えるため、住友信託銀行では2011年に社会貢献寄付信託(「明日へのかけはし」)の取扱いを開始しました。

この商品は、お客さまから信託された金銭を約5年間にわたって毎年一定額、公益団体に寄付するものです。寄付先は、あらかじめリストアップされた多様な公益団体からお客さ

まの関心に応じて選ぶことができ、また、毎年変更することもできます。

寄付先に(財)日本生態系協会を指定すると、同協会はp9で紹介したアミノクロウサギ、ツシマヤマネコ、北限のブナ林の生息地を購入します。

寄付した後は、これらの3種の貴重な生きものをどのように守っているか等の、トラスト地に関するレポートが送られてきます。このレポートは、社会貢献寄付信託を通じて寄付いただいた方のための特別版です。

また、年に1回、「自然と恵みのギフト」としてトラスト地周辺の特産品が送られてくるなど、楽しみながら寄付ができます。

## 対馬市長からのメッセージ

ツシマヤマネコ保護活動へのご協力に感謝申し上げます。

希少生物を守っていくには、その生息地の保護・保全が最重要課題です。ツシマヤマネコの生息地域は90%が民有地であるため、開発等への制限が難しく、今回のような生息地を買い取るトラスト活動は重要です。

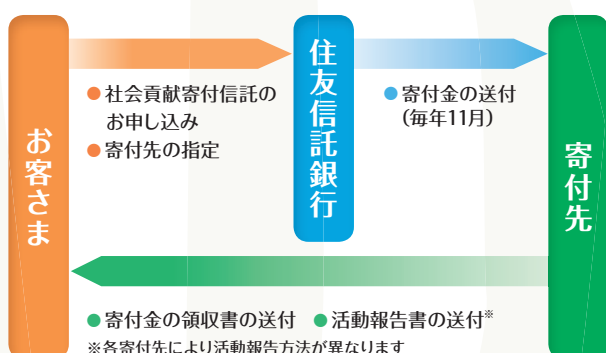
住友信託銀行さんは、事業を通

じてさまざまな形でトラスト活動を支援されており、今後ぜひこのような活動を続けていっていただきたいです。そして一人でも多くの方にツシマヤマネコの保護の必要性を知っていただく取組みをお願いしたいと思います。



財部 能成 市長

## 社会貢献寄付信託「明日へのかけはし」の仕組み



## 社会貢献寄付信託、遺言信託についてもっと知りたい方は、下記ウェブサイトをご覧ください。

住友信託銀行 社会貢献寄付信託 <http://www.sumitomotrust.co.jp/bp/estate/contribution/index.html>

住友信託銀行 遺言信託 <http://www.sumitomotrust.co.jp/BP/estate/last-will/>

## ナショナル・トラスト活動についてもっと知りたい方は、下記ウェブサイトをご覧ください。

(社)日本ナショナル・トラスト協会 <http://www.ntrust.or.jp/> 電話:03-5979-8031/FAX:03-5979-8032

(財)日本生態系協会 <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/> 電話:03-5951-0244/FAX:03-5951-2974

※(財)日本生態系協会は、(社)日本ナショナル・トラスト協会と連携して、自然と共存する美しい国づくり、まちづくりを進める国内屈指のシンクタンクです。

# アクティブなセカンドライフを送るために必要なこと

詐欺などに  
騙されないためには

→金融詐欺対策セミナー

WEB

これからのお金との  
つきあい方を考えたい

→セカンドライフのマネープランを  
考えてみませんか (p19-20)

WEB

スポーツなどで  
体作りをしたい

健康を維持したい

→健康なセカンドライフ  
を送るために  
(p17-18) WEB

家族の介護に  
直面したら

友人や仲間の  
輪を広げたい

新しいことを  
学びたい

家族の絆を  
大切にしたい

→60歳のラブレター

WEB

住まいはどうする？

あこがれの  
田舎暮らしをしたい

社会の役に立ち続けたい

→トラスト地でのボランティアに  
参加しませんか (p7) WEB

→人生に「余り」は無いーインドの孤児支援に  
毎日を捧げる (p13-14) WEB

→日本の高齢社会は暗くない(p15-16) WEB

世界中を  
旅行したい

絵画や音楽などの  
文化を楽しみたい

現代のセカンドライフを迎える  
方々は、以前に比べて気力、体力と  
もに若い方が多いと思いませんか？  
※日本人の60歳の平均余命は男性  
22・8歳、女性28・3歳。定年  
退職後の生活は平均20年以上あり  
ます。これは、人生の約4分の1に  
あたる自由時間を手に入れるとい  
うことです。せっかくの長いセカンド  
ライフですから、生き活きと楽しく  
過ごしたいですね。そのためには、  
生きがいや健康、ゆとりある生活を  
支えるためのお金など、アクティブ  
に過ごすための準備が必要です。  
価値あるセカンドライフのために、い  
まから準備を始めませんか。



WEB 印のコンテンツはウェブサイトに掲載しています。

サクセスフル・エイジングについてもっと知りたい方は、下記ウェブサイトをご覧ください。

住友信託銀行 サクセスフル・エイジング <http://www.sumitomotrust.co.jp/csr/brand/withyou/successfulaging>

住友信託銀行 サクセスフル・エイジング 検索



コンクリートでできた立派な校舎

てしまい、新潟県内の企業や友人知人に300通の手紙を書いて支援を求めました。しかし返事がきたのはたったの1通。これは自分でやるしかない、と、昭吾さんは夜間の警備員の仕事に就き、和子さんは、バザーなどでお金を集め、支援をお願いして回りました。以来、昭吾さんの給料150万円と、年金などから200万円、合わせて毎年350万円をインドの子どもたちのために送っています。

「日本のおじいちゃん、おばあちゃん」と慕ってくれる子どもたちの笑顔がご夫妻の支え。奮闘の結果、支援の輪は少しずつ広がり、今では、約120人の子どもたちがこの施設で暮らし、学んでいます。困難もあきらめなければ何とかなると、とてもパワフルで前向きなお二人。ご夫妻の奮闘はこれからも続きます。



敷地の一角のグラウンド予定地で



「子どもの憩いの村」の所在地

**信念があれば何でもできるー片桐ご夫妻の言葉から**

**夢ふくらますコーヒータイム**

忙しい毎日のなかで、朝10時のコーヒータイムは大切な時間。この時間は主に彼女がアイデアを語り、話し始めるとどんどん夢が広がってくるんです。初めはできっこないと思うようなことでも、毎日ずっと聞いていると不思議とできるような気がしてくるんです。次から次へと夢を語る彼女は、かつての18歳の頃と変わりません。(昭吾さん)

今の夢は、日本とインド双方の若者を行き来させて、もっと交流できるようにすることです。(和子さん)

私は、学校に公認(400m)のグラウンドを造って、そこからオリン

**生きている限り夢に向かい続ける**

「余生」って余りの人生。余りなんてありません。生きている限り現役です。私にとっては自由にやりたいことができて、今が一番幸せです。また、同世代の方には、趣味を楽しむものいいけれど、その中にほんの少し、人のためを思うことを加えていただければと思います。(和子さん)

路上暮らしの頃は夢がなかった子どもたちが、「子どもの憩いの村」に来てから医者や教師、大統領になりたいと夢を語るようになりました。私たちも「やればできる」という信念を失わなければ、いくつになっても、何でもできるんです。(昭吾さん)

## ストリートチルドレンに捧げるセカンドライフを紹介 新潟支店

新潟支店では、片桐様ご夫妻が主宰する非営利団体「爽」企画室の活動を、地元の新聞で見つけ、心を動かされた職員がお願いして、店頭ロビーで紹介させていただきました。セカンドライフをインドでの社会貢献活動に捧げる片桐様ご夫妻の活動は、サクセスフル・エイジングをまさに体现する取組みとして、お客さまにも好評でした。ロビーにはインドの子どもが描いた絵や文字も展示しており、お客さまからは「心を和ませる取組みですね」とのお声がけをいただきました。定年後の方の活動ということから、熱心にパネルをご覧になるお客さまが多くいらっしゃいました。



お話を伺った片桐和子さん(右)昭吾さん(左)ご夫妻

新潟県で非営利団体、「教育と環境の『爽』さわやか企画室」を運営する片桐和子さん、昭吾さんご夫妻。定年後に輝く「いま」をご紹介します。

**インドで見た子どもたちの現実**

片桐さんご夫妻は退職後の1998年、二人で参加したNGOのスタディツアーでインドを訪れ、衝撃的な場面に遭遇しました。

深夜、とある駅に着き、真っ暗な中、昭吾さんの足元に何かがぶつかりました。月明かりによく見ると、それは薄い布切れにくるまった子どもで、恨めしそうな目つきでこちらを見上げていました。インドの駅には身寄りのない子どもたちが数多く住み着いていたのです。貧困や危険にさらされ、未来の希望を持たない子どもたち。

「見てしまった以上、この子たちを放つてはおけない」と、片桐さんご夫妻は、その後の人生を、インドのストリートチルドレンの支援に捧げることを決意したのです。

## 「子どもの憩いの村」計画 始動!

その後、参加したスタディツアーを案内してくれたインドの現地NGOに相談して、インド東部のビジャカパトナム市郊外に、「子どもの憩いの村」の建設計画がスタートしました。

まずは子どもたちが安心して眠れるホーム1棟と、温かい食事が食べられる台所がある施設を2003年に建設。宿泊所の追加、農園、職業訓練所、瞑想堂、診療所、図書館など計画を広げ、苦労しながら一つひとつ実現していきました。

2009年には「子どもの憩いの村」は36422平方メートルの面積を持つ、子どもたちの暮らしを丸ごと支える施設となりました。さらに、子どもたちが職を選び、貧困から抜け出せるよう、現在は州政府認可学校の建設を進めています。

## 自らの手で困難を切り拓く

当初、ご夫妻が支援にあてていた貯金や退職金はあつという間に尽き



## 社会とつながり続けている方たち

### 葉っぱビジネス

徳島県上勝町にある株式会社いるどり。日本料理の「つまもの」として使用されている木の葉や草花を商品化。平均年齢70歳の高齢者約200世帯が取り組み、現在の年商は2億6,000万円。中には、年収1,000万円を稼ぐおばあちゃんもいます。



### シルバー人材センター

自分なりの働き方で社会参加できるのがシルバー人材センターです。全国の市区町村約1,600カ所に開設され、2010年には78万7,000人が会員登録し、公園清掃や駐車場管理などのほか、専門技術などを生かし経理や翻訳などさまざまな仕事に取り組んでいます。



**現役時代に自分は何ができるか棚卸ししてみる**

公的年金の支給開始年齢も、各国ともに引き上げる方向にあります。特に高齢化率の高い日本は、高齢者自身が社会参加して自分の持っている知識や技術を伝

日本の高齢者は、元気で働く意欲も極めて高く、実際に労働力率も高くなっています。人類の悲願であった長寿を実現し、超高齢社会に突入した今、高齢者も社会を支える主役となって活動する時代を迎えたといえます。

私たち国際長寿センターは、少子高齢化に伴う諸問題を国際的・学際的な視点で調査研究しています。日本は諸外国に比べて医療も介護も年金も制度としては充実しているほうです。加えて、日本人の勤勉で堅実な気質が幸いしてか貯蓄もあり、持家もあり、比較的金裕のある高齢者が多いようです。

### 諸外国に比べて恵まれている日本のシニア

**せっかく長生きできるようになったのだから、その恩恵を活用しないとソン！**

### サポートする側に立つ意識でいることが大切

地域貢献にしてみても、ボランティアという身構えてしまいがちですが、日本では町内会活動に参加している人も多し、都会では小学生の通学を見守る役を担っていたりなど、実際には貢献している高齢者の方たちがたくさんいます。一日のうち1時間でも2時間でも時間を提供することで、その地域がうまく回ることを考えると、高齢者の果たすことができる役割は本場に多いなあと思います。

承することで社会を支えることになると思います。



お話をいただいた財団法人 長寿社会開発センター 国際長寿センターの首席調査役 大上真一さん(右)と係長 鹿嶋真美子さん(左)

また、年齢を重ねるとともに足腰などが弱ってきた方たちでもいろいろな力を持っています。主役となって社会とつながり続けることが高齢者自身にとってもいきいきとした生活を送ることにつながると思います。

国や若い世代に頼るだけではなく、能力を生かし、自分がサポートする側に立つことが本人にとっても社会にとってもベストであると思います。せっかく元気で長生きできるようにするための恩恵を十分に活用して自分らしく生きていきたいですね。

# 日本の高齢社会は暗くない

いつまでも社会とつながっていくことの大切さ

「超高齢社会」「福祉・医療費の増大」「介護」……。日本の近未来は暗いイメージで語られることが多いですが、実際のところ、どうなんでしょう？ 現実には頼もしい高齢者であふれる日本。日本の高齢者の現実の姿を知ってください。

## 本格的な高齢社会到来

日本の総人口は、2010年10月1日現在、1億2,806万人です。そのうち65歳以上の高齢者は、過去最高の2,958万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)は23.1%となりました。4人に1人が高齢者に近づいている、本格的な高齢社会になっています。

## 2人で1人の高齢者を支える社会に

65歳以上の高齢者と15〜64歳の現役世代の人口比率をみると、1960年には高齢者1人に対して現役世代11.2人でしたが、2010年には2.8人になっています。今後、高齢化率は上昇を続け、2025年には、この比率が2人ま

## 超高齢社会を支えるのは実は高齢者自身

これまでは高齢になれば仕事を辞め、社会の第一線から退いて家族や社会に扶養されるというイメージがありました。現在の日本の高齢者の多くは就労意欲も高く、地域貢献などにも積極的です。

2009年の65歳以上の労働力率(労働力人口が生産年齢人口に占める割合)は、男性で約3割、女性で1割強で、他国と比べても高くなっています(図1参照)。

一方、2030年までに、労働人口は二千万人以上減少すると予想されています。しかし、高齢者への就業支援策などが定着し、高齢者の労働市場への参加が進んだ場合、60歳以

上の労働人口が約3百万人増加し、全体の20%を占めるようになります(図2参照)。

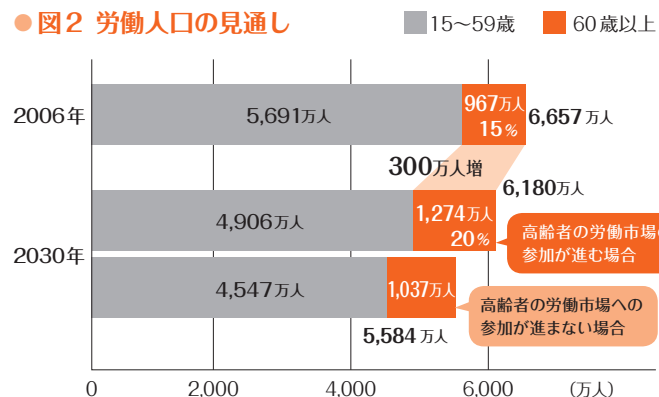
超高齢社会を迎えるにあたり、高齢者自身が社会を支える、社会の活力を生み出す原動力は高齢者自身である、そのような発想の転換が私たちにも求められています。

## 年齢に関係なく個々の能力が発揮できる社会

これからの高齢社会を豊かで活力あるものとし、長生きが価値あるものとするためには、年齢に関係なく多くの人々が自分の能力を生かし、その可能性を発揮できる環境を整えていかなくてはなりません。

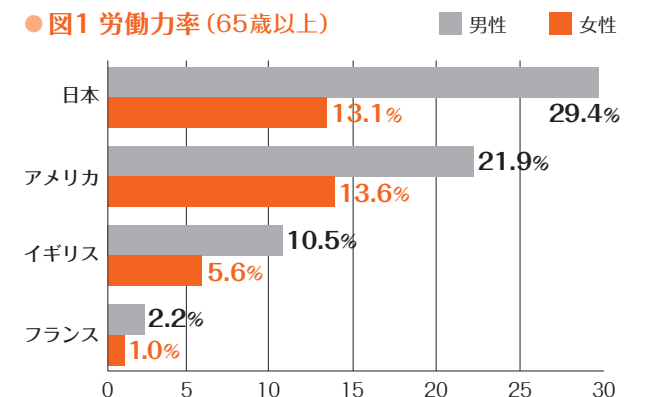
年齢を重ねても社会とつながりを持ち、持っている能力を発揮している方たちは今の日本にも大勢います(p16「社会とつながり続けている方たち」参照)。実は身近にいるそういう方たちを見習いながら、現役世代、高齢者それぞれが何をすべきかを考えることが必要ではないでしょうか。

●図2 労働人口の見通し



厚生労働省職業安定局推計「労働市場への参加が進むケース」(2007)

●図1 労働力率(65歳以上)



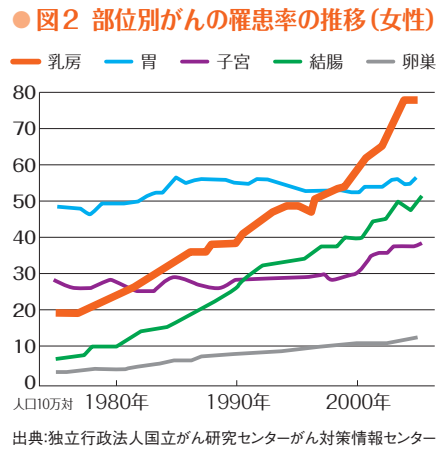
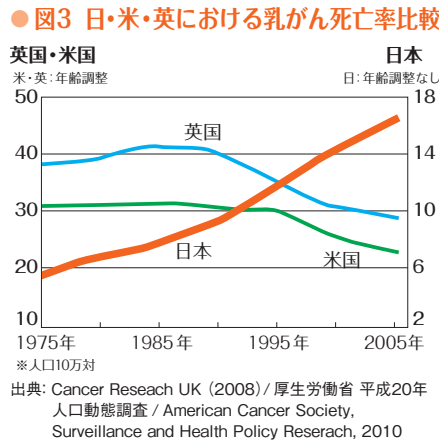
OECD, Stat Extracts, 2009

参照：国際長寿センター「高齢社会を生きる Aging-Our Global Relations」  
内閣府「平成23年版 高齢社会白書」



乳がんは他のがんと違って、自己チェックで見ることができがんです。正しい自己チェック方法を身につけ、毎月行っていると、わずかな変化でもわかるようになります、かなり早い

## 自己チェックと検診で早期発見を！



その後、2000年代には日本でも知られるようになりました。乳がんへの理解をより深めてもらうため、企業・地域・市民団体などが運動を続けています。

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

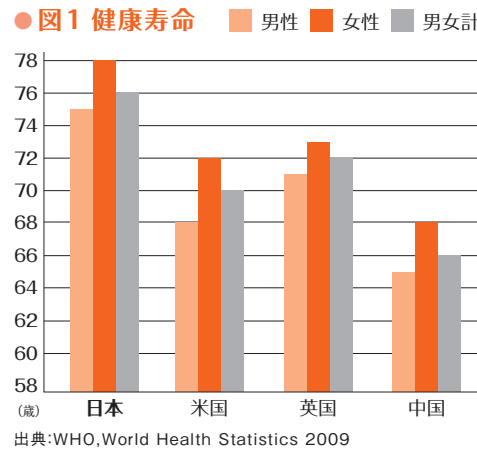
運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

下してきています。

運動が始まりました。この運動の広まりもあり、米国の乳がん死亡率は低

# 健康なセカンドライフを送るために

日常的な健康管理の大切さ



日本は、平均寿命が世界一の国ですが、健康寿命も世界一であることを知っていますか。健康寿命とは、平均寿命から日常生活を大きく損ねる病気やけが、認知症等の期間を差し引き、介護の手を借りることなく暮らせる年数を表す指標です。

## 日本は、平均寿命、健康寿命ともに世界一

気予防への取り組みの成果でもあります。子どもの時から健康診断を受けることが習慣化・義務化され、高齢者には無料健康診断や健康相談が自治体によって実施されるなど、他国と比べても健康管理が日常的になっているのです。

## しかし、日本の乳がんは深刻です

日本での死因別死亡率の第1位は「がん」ですが、がん罹患率も死亡率も上昇し続けているのが、女性の乳がんです。(図2、図3参照)

日本での罹患率の上昇は、食生活の欧米化などライフスタイルの変化などが原因といわれていますが、乳がんは、早期に発見し、早期に治療すれば90%以上が治るといわれています。実際に米国や英国では1995年から死亡率は減少傾向にあります。(図3参照)

## わたしたちもピンクリボン運動に協力しています！

住友信託銀行は、お客さまを金融面だけでなく、「健康」という面からも応援したい、という思いで、2005年よりピンクリボン運動に協力しています。毎年10月のピンクリボンフェスティバル(日本対がん協会など主催)の開催にあわせて、全国の支店でピンクリボン運動を展開しています。2010年はピンクリボン運動に関するロビー展を国内42店舗で開催するなど、全国規模での運動を展開しました。また、東京・神戸・仙台で開催されたスマイルウオークには社員が多数参加しました。東京、神戸の2会場で開かれている乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを訴えるシンポジウムにも協賛をしています。2009年からは「ピンクリボン運動応援特別企画」を実施し、乳がん征圧に取組む団体へ寄付を行うとともに、期間中賛同いただいたお客さまにはオリジナルのピンクリボングッズを進呈しました。



乳がんの検診、ピンクリボンフェスティバルについて  
もっと知りたい方は、下記ウェブサイトをご覧ください。

厚生労働省 市区町村がん検診に関するホームページリンク集 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/link.html>

ピンクリボンフェスティバル 公式サイト <http://www.pinkribbonfestival.jp/>

※1 内閣府政策統括官共生社会政策担当「高齢者の健康に関する意識調査」(2007)より  
※2 2006年における50歳～69歳女性のマンモグラフィ検診受診割合は、米国72.5%、英国70.7%、日本は23.8%。(OECD Health Date 2009より)  
※3 乳がん検診は、各市区町村での住民健診または、専門病院にて検診を受けることができます。住民検診については、各市区町村の担当部課(保険福祉課など)にお尋ねください。

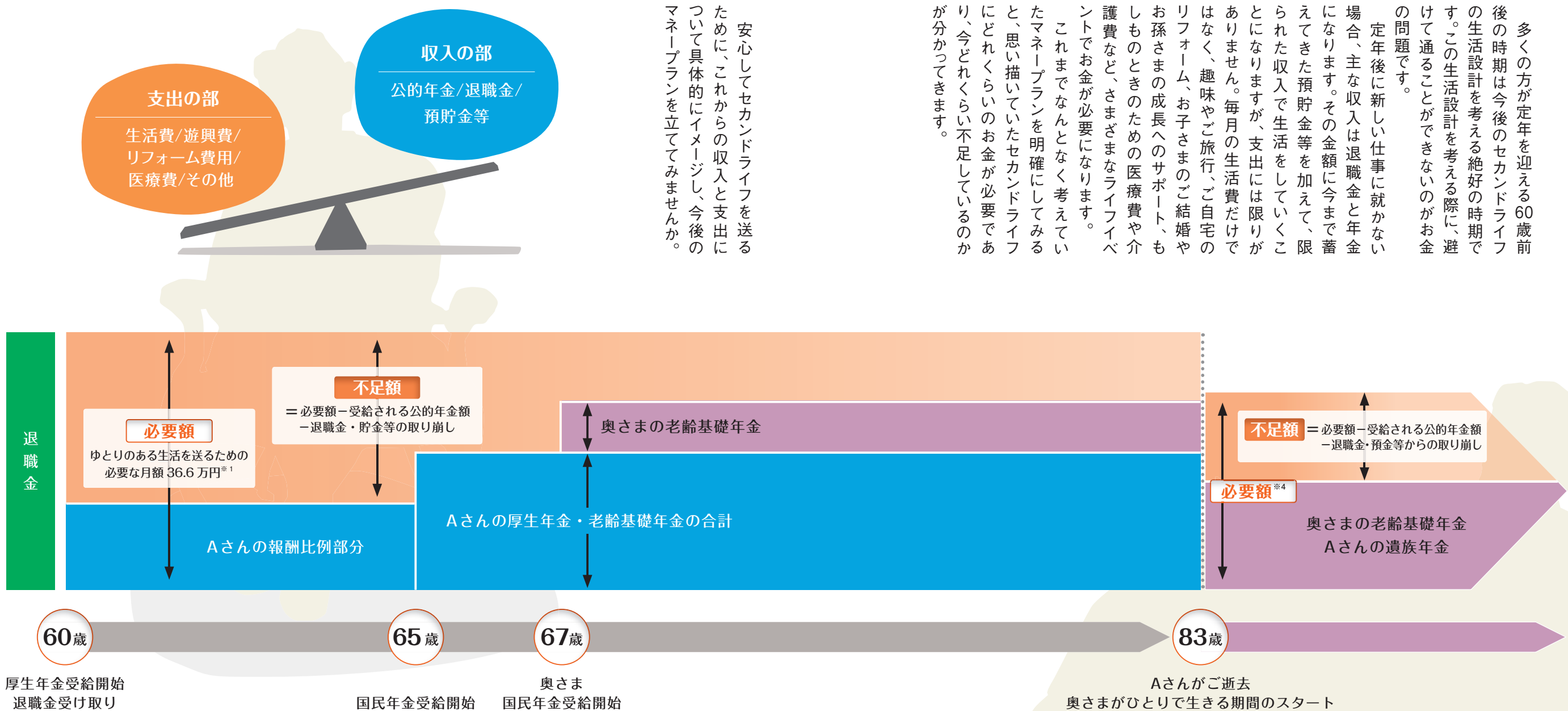
# セカンドライフのマネープランを 考えてみませんか

多くの方が定年を迎える60歳前後の時期は今後のセカンドライフの生活設計を考える絶好の時期です。この生活設計を考える際に、避けて通ることができないのがお金の問題です。

定年後に新しい仕事に就かない場合、主な収入は退職金と年金になります。その金額に今まで蓄えてきた預貯金等を加えて、限られた収入で生活をしていくこととなりますが、支出には限りがありません。毎月の生活費だけではなく、趣味やご旅行、ご自宅のリフォーム、お子さまのご結婚やお孫さまの成長へのサポート、もしものときのための医療費や介護費など、さまざまなライフイベントでお金が必要になります。

これまでなんとなく考えていたマネープランを明確にしてみると、思い描いていたセカンドライフにどれくらいのお金が必要であり、今どれくらい不足しているのが分かってきます。

安心してセカンドライフを送るために、これからの収入と支出について具体的にイメージし、今後のマネープランを立ててみませんか。



## Aさん60歳・奥さま58歳（専業主婦）のご夫婦

- 退職金の多少や取り崩し方等で上図の不足額が変わります
- 上図内の年金支給図はあくまでも一例です  
(加給年金および振替加算は加味していません)
- 支給される年金額については「ねんきん定期便」等でご確認ください
- ゆとりある生活には36.6万円<sup>※1</sup> 最低日常生活費は毎月22.3万円が必要<sup>※2</sup>
- Aさんは83歳でご逝去と仮定<sup>※3</sup>

※1,2 生命保険文化センター「平成22年度 生活保障に関する調査」  
(老後を夫婦2人で暮らしていく上で必要と考える費用)  
※3 厚生労働省「平成22年簡易生命表」より、60歳男性の平均余命は22.8年(年齢に平均余命を加えると82.8歳)  
※4 奥さまがひとりで生きていく期間の必要額はそれまでの約7割とされています

住友信託銀行では、皆さまとご一緒にセカンドライフのマネープランを考えます。  
お気軽に各支店あてにご相談ください。

住友信託銀行  検索

### 海外旅行に行きたい

定年退職の記念にのんびりと旅行を楽しみたい。



### ゴルフを楽しみたい

これからはゴルフを楽しみ、腕をあげていきたい。



### 自宅をリフォームしたい

バリアフリーを考えたい。  
空いた子供部屋を活用したい。



### 入院することになった

早い時期に病気が見つかって、  
本当に良かった。



# WEBサイトのご案内

With You活動のより詳しい情報はWEBサイトでも紹介しています。随時情報を更新し、住友信託銀行が地域・社会の皆さまとともにに行っている活動をご紹介します。お客さまの知的好奇心を満たすWEBサイトを目指していきます。ぜひご覧ください。



<http://www.sumitomotrust.co.jp/csr/brand/withyou/01.html>

WEBサイトは以下の3つの内容で構成しています。

環境・  
生きもの  
応援活動

サクセスフル・  
エイジング

地域・  
社会

## 環境・生きもの応援活動

住友信託銀行が応援するナショナル・トラスト活動の紹介と、活動によって守られている日本全国の土地の魅力や貴重な自然を随時紹介していきます。また、住友信託銀行をあげて取組んでいる「環境・生きもの応援活動」も紹介します。今後は、支店スタッフによる支店周辺の身近な生きものの紹介も随時掲載する予定です。



## サクセスフル・エイジング

お客さまが健康で豊かに年齢を重ねていくサクセスフル・エイジングをお手伝いする情報を紹介していきます。



## 地域・社会

住友信託銀行が、さまざまなパートナーと協力しながら行っている、地域社会の活性化や豊かな生活環境づくりを目指した活動、教育・文化活動等をご紹介します。情報は随時更新していく予定です。



## 支店ブログ

各支店における社会貢献活動の最新の状況や、取り組みへの想いを、随時ブログ形式にて発信していきます。(2011年11月オープン予定)



# With You

## With You活動のコンセプト

私たち住友信託銀行は、お客さまや地域社会の皆さまにとって良き企業市民であり続けたいと考えており、そのような思いを「With You」という言葉に込め、さまざまな取り組みを行っています。

とりわけ、私たちが環境に関する取り組みのうち最も重視している「生きもの応援活動」、お客さまが健康で豊かに年齢を重ねていくことをお手伝いする「サクセスフル・エイジング」、そして私たちが企業活動を行うそれぞれの「地域・社会」の発展を3大テーマと位置づけています。

私たちは、これらの活動を「皆さまとともに (With You)」行うことで、「顔の見える銀行」になりたいと考えています。

## CONTENTS

### ナショナル・トラスト活動を応援

- 01 生物多様性の宝庫-英国ウィッケン・フェンへ
- 03 世界遺産の地・知床半島をいく
- 05 日本全国に広がるナショナル・トラスト活動
- 06 自然はつながっている
- 07 トラスト地でのボランティアに参加しませんか
- 08 あなたの財産で豊かな生態系を守りませんか
- 09 住友信託銀行はナショナル・トラスト活動を応援しています

### サクセスフル・エイジング

- 11 アクティブなセカンドライフを送るために必要なこと
- 13 人生に「余り」は無い- インドの孤児支援に毎日を捧げる
- 15 日本の高齢社会は暗くない
- 17 健康なセカンドライフを送るために
- 19 セカンドライフのマネープランを考えてみませんか

### 21 目次・WEBサイトのご案内

2011年9月発行  
住友信託銀行株式会社 企画部 社会活動統括室  
〒100-6611 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー  
電話番号:03(6256)6251

知床半島 岩尾別台地(写真提供 斜里町)